

主要教材の内容解説

開発した教材は、「色」を入口にして地域の自然・歴史・文化・防災を学ぶ構成になっており、子どもが“興味 → 探究 → 理解 → 防災”へと進むよう段階的に設計されています。

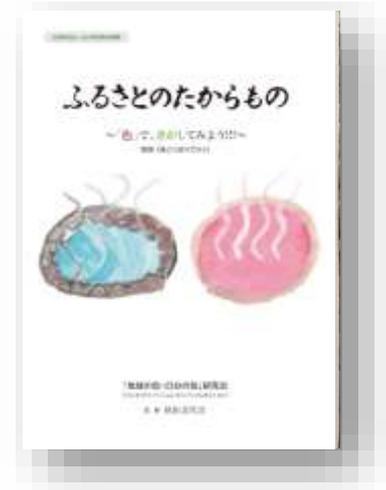
1. 🌱 入門教材「ふるさとのたからもの」

目的

- 子どもが地域の自然や文化に興味を持つ入口となる教材
- 「きれいな色」から地域を見る視点を育てる

内容

- 血の池地獄の赤い泥、温泉の色、植物の色など、地域に存在する“色”の写真や実物資料
- 色の違いから、自然の成り立ちや地域の特徴を知る
- 幼稚園・小学校で実践され、図書館にも配置されている



2. 🔍 探究教材「ふるさとのふしぎ」

目的

- 入門教材で得た興味を、探究学習へ発展させる
- 色の変化や性質から、自然科学的な理解を深める

内容

- 温泉水の性質を紫キャベツ液で分析する実験
- 別府石・白土・土壌などの地域素材の観察
- 色の変化から、温泉の成分や地質を学ぶ
- 「なぜこの色になるのか？」を自分で考える探究型構成



3. 🗺️ 地域連携教材「ふるさとのだいち」

目的

- 地域の地形・地質・文化を「色」で比較しながら理解する
- 別府・国東などの地域学（別府学・国東学）と連動

内容

- 火山帯の地形、土壌の色、温泉の色の違いを比較
- 地域の歴史や文化（伝承など）と自然環境の関係を学ぶ
- 学校・幼稚園・こども色博物館で教育効果を検証済み



4. 🌐 学習教材「ふるさとのうみとそら（地域防災）」

目的

- 色を入口にした防災教育
- 海・空・地形の“色の変化”から災害の仕組みを理解する

内容

- 別府・国東・姫島の海や空の色の違いから、海流・気象・地形・津波の仕組みを学ぶ
- 血の池地獄の赤い泥、拍子水温泉の淡黄土色の泥を使った「地獄染め」

体験

- 瓜生島伝説など、地域の歴史・災害伝承をストーリー化
- 「海を知ることが命を守ることにつながる」という防災理念
- 子どもが恐怖を感じやすい防災学習を、“色”を使ってやわらかく学べる構成



🎨 教材シリーズの特徴（総括）

- 色 → 自然 → 歴史 → 防災 へとつながる一貫した学習体系
- 地域素材（泥・石・温泉水）を使う“体験型”
- 子どもが「自分の地域を知ること＝命を守ること」と理解できる構造
- 教科書にも取り上げられ、教育委員会・学校で広く活用